

平成20年度「大学教育の国際化加速プログラム
 (国際共同・連携支援(総合戦略型))」
 申請・採択状況一覧

			国際共同・連携支援(総合戦略型)
単 独 申 請	国立大学	申請数	16
		採択数	3
		採択率	18.8%
	公立大学	申請数	1
		採択数	0
		採択率	0.0%
	私立大学	申請数	11
		採択数	1
		採択率	9.1%
共同申請	申請数	5	
	採択数	2	
	採択率	40.0%	
合計	申請数	33	
	採択数	6	
	採択率	18.2%	

(注)本事業の募集対象は、大学院(修士課程、博士前期課程のみ)及び専門職大学院としている。

平成20年度大学教育の国際化加速プログラム(国際共同・連携支援(総合戦略型))選定大学一覧

1. 単独申請

NO.	設置形態	大学等名	共同で行う大学等	取組名称	取組概要	連携先大学	取組担当者
1	国立	北海道大学		国際教育連携を加速させる総合支援機能構築	北海道大学では、「持続可能な開発」の実現に資する教育と研究の世界的拠点化を目指して、2005年に国際戦略を開始し、海外大学との研究連携を促進させる全学的支援機能の強化という点で確実な成果を上げてきた。この成功手法を活用し、本取組では、「持続可能な開発」に関しこれまで展開してきた教育の国際化の取組の中から、グッドプラクティスをいくつか取り上げ、これらを全学的な支援によって集中的に深化・拡大させるプロセスを通じて、3年後には国際教育連携の全学的かつ総合的な支援機能を確立し定着させる。特徴としては、3つの異なる教育コンソーシアムの教育連携体系を互いに参照比較しつつ、異なる単位制度をもつ大学との共同授業やダブル・ディグリーを実現させることで、教育システムの国際的共通性を一気に向上させ、学生・研究者の国際流動性並びに国際競争力を短期間で飛躍的に強化する。	オウル大学(フィンランド)、スイス連邦工科大学(スイス)、アジア工科大学(タイ)、タスマニア大学(オーストラリア)	理事・副学長 本堂 武夫
2	国立	東北大学		欧州の大学との国際共同教育プログラム	東北大学が加入している国際的な大学連合であるT.I.M.E (Top Industrial Managers for Europe)の枠組みを活用して、欧州の広範な著名大学と学生交流プログラム『欧州の大学との国際共同教育プログラム (JEPEU: Joint Education Program with European Universities)』を実施する。 JEPEUは修士課程の理工系の分野を中心に実施することとし、プログラムは、単位互換プログラム、ダブルディグリープログラム、サマープログラムなどを組み合わせた包括的なものとして学生の様々なニーズに応えるものとする。JEPEUによる教育や研究指導は英語によることを原則とする。 東北大学は、『井上プラン2007』に基づいて、人類社会の発展に貢献する世界のリーディング・ユニバーシティーを目指しており、JEPEUを通じて教育の国際化の一層の促進を図るものである。	デンマーク工科大学(デンマーク)、ヘルシンキ工科大学(フィンランド)、エコール・セントラル/国立応用科学院リヨン校(フランス)、ミュンヘン工科大学(ドイツ)、チャルマース工科大学(スウェーデン)王立工科大学(スウェーデン)、スイス連邦工科大学チューリッヒ校(スイス)	理事 植木 俊哉
3	国立	長岡技術科学大学		日墨米3国協働による技術者養成プログラム	これまで実践力・創造力を備えた指導的技術者の養成を使命とし、社会人留学生の受入やベトナム・中国・メキシコの大学との学部レベルでのツィニングプログラムなど、諸外国の教育研究体制を常に意識し、先進的・独創的な教育の取組を数多く実施している。本事業は、こうした取組の成果を基軸とし、新たな国際連携・国際貢献の方策として、諸外国のニーズ・現状に応じた実践的・高度技術系エンジニアの輩出及び墨一米の社会人再教育を実施する。 具体的には、近年多くの日系企業が進出している墨一米国境地帯に着目し、指導的立場で高度実践的技術を備えた技術者養成を、墨・米・日の3国のコンソーシアムを通じて実施する。社会・経済のグローバル化と国際競争が激化する中で、ダブル・ディグリープログラムの実質化による真に役立つ技術者の輩出は、日本の工業技術の優位性と国際的先導性を高め、日本のリーダーシップを発揮する人材養成教育システムとなる。	ガアナファト大学/ミチオアカナ大学/シウダーフアレス大学(メキシコ)、テキサス大学エルパソ校(アメリカ)	副学長 渡邊 和忠
4	私立	東京理科大学		総合的な国際連携に基づく理工学教育拠点形成	東京理科大学では、これまで米国カリフォルニア大学デイビス校、サンタクルーズ校、及びオハイオ州立大学の3大学と連携し、学部における1年間留学プログラムと大学院におけるダブルマスターディグリープログラムを有機的に機能させ、大学院修士課程修了時に東京理科大学と留学先連携大学から2つの修士学位を取得する先端的国際連携プログラムを実施している。本取組の目的は、このプログラムを更に次の2つの方向に加速させることにある。 ①学内の参加学部学科を広げ学生派遣及び受入れを拡大するとともに、更に海外の連携大学の参加を拡大する。 ②これらの海外の連携大学の協力を得て、ナノ・物質科学、総合化学、バイオサイエンス分野で英語による体系的な教育プログラムを開発し、国際化を総合的に加速させる。	カリフォルニア大学デイビス校・サンタクルーズ校/オハイオ州立大学、UCサンタバーバラ校、UCロスアンゼルス校(アメリカ)	理学部第一部学部長兼理学研究科長 橋本 巖

2. 共同申請

設置形態	大学等名	共同で行う大学等	取組名称	取組概要	連携先大学	取組担当者
5 国立	東京医科歯科大学	お茶の水女子大学	異分野融合型疾患生命科学教育の国際連携	<p>異分野融合型疾患生命科学の国境を越えた教育拠点形成を目的として、米国、欧州（独英）、アジア（中国）の世界三拠点における高等教育機関と連携したグローバルな教育ネットワークを整備する。東京医科歯科大学大学院の特徴である産官学連携大学院制度をグローバルに展開して、海外の各連携大学の教員が参加した複数指導員制度を実現する。</p> <p>学生が東京医科歯科大学に在学しながら海外の先進的大学の学位（修士）研究指導を享受できる制度を整備し、学位研究指導を実質的に国際化し、大学院教育の国際水準を確保する。海外連携大学との単位互換、海外連携大学の教員が担当する正規科目の設置、学生が海外連携大学に滞りながら学位研究指導を享受、の施策を実施し、並行して、米国、ドイツ、英国、中国、日本の各大学が互いにイコール・パートナーとして国際共同した国際ネットワーク型ダブル・ディグリー教育プログラムを開発して、本取組が終了する3年後にはこのプログラムを開始する。</p>	ヴァンダービルト大学/テネシー大学(アメリカ)、ハイデルベルグ大学(ドイツ)、イーストアングリア大学(イギリス)、中国協和医科大学/中国医科大学(中国)	教育部長 田中 博
6 国立	九州大学	東京農工大学、 神戸大学	アジア農学教育の国際プラットフォーム形成	<p>九州大学大学院生物資源環境科学府の英語による「国際開発研究特別コース」修士課程を中心に、国際教育に関連する学内の部局間連携を強化し、日・独・タイの複数の大学の教員が参加する「国際共同教育プラットフォーム」を設立し、魅力ある大学院教育を提供することでアジア・EUの大学生を惹きつける国際農業開発教育の拠点を作る。</p> <p>このプラットフォームでは、講義・演習・実習が参加大学の教員によって実施され、参加大学は必要に応じて教員の派遣・受入を行う。</p> <p>このため、4つのサブプログラム・パッケージ（①日・独・タイの大学連携、②カリキュラムの改編、③教育環境の整備、④指導体制と制度の改革）を実施し、世界の農学高等教育をリードする体制を確立する。本取組は、既に確立しているブロック・モジュール制の長所を活かし、留学生教育の強化・日本人学生の国際力の強化・海外からの我が国への短期留学促進をねらいとする。</p>	ホーエンハイム大学(ドイツ)、 チェンマイ大学/カセサート大学 (タイ)	農学研究科教授 平松 和昭